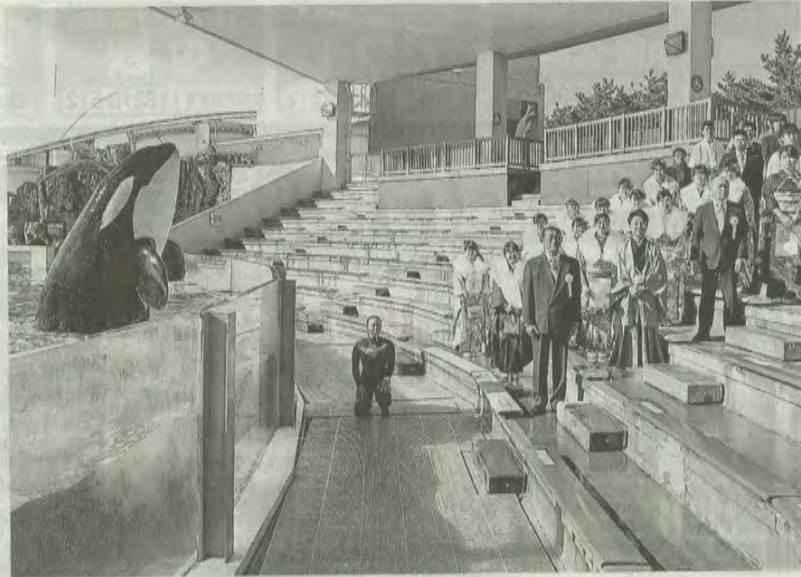


鴨川のシャチ ハタチに



新成人らと記念写真におさまるプールから顔を出したシャチ（7日午前、鴨川市東町で）

成人式「出席」 数々の試練乗り越え

鴨川市の水族館「鴨川シーワールド」で日本で初めて水族館で生まれ育った雌のシャチ・ラビーが20歳を迎えることになり、7日、同水族館で行われた市の成人式で成人証書が贈られた。ラビーは国内で初めて水族館生まれの2世を2頭出産し、自らも水族館生まれの国内最長寿の更新を続けている。鴨川でも20年の年月を過ぎてきた新成人は「ラビーは郷土の誇り」と笑みを浮かべて語った。
(笹川実)

シーワールドのラビー 水族館生まれ 国内最長寿

同水族館によると、ラビーは1998年1月11日生まれで現在体長5・2メートル、体重約2・1ト。誕生直後、水中で生死をさまよったが、別のシャチが近寄り頭の後ろをかむと、泳ぎ始め水面で呼吸を始めたという。

しかし、母シャチが面倒を見ないため、トレーナーがプールに入り、ラビーを捕まえるふりをするなどして母性本能を刺激した。すると母子が寄り添って泳ぐようになったという。ラビーが2歳の時には、プール外へ飛び出す演技で通路まで飛び出して身動きできなくなり、重機でつり上げて救出したこともあった。

頭をかんだシャチは88年にアイスランドの海から来た雄で、その後夫婦となり、ラビーは自然交配で10歳と14歳の時に出産した。

ラビーの誕生は別のシャチの流産や急死という2度の試練があった後だった。それだけに飼育員はラビーが生まれ落ちてプールの底

に沈んだ時は「嫌な予感があった」と振り返り、「頭をかまれて目覚めた時は本当にうれしかった。あの雄と後に結ばれるなんて運命的だ」としみじみと語る。

国内でシャチを飼育するのは同館（4頭）と名古屋港水族館（3頭）。大きなプールが必要だけでなく、繁殖は飼育自体が難しく、繁殖はさらに困難だ。国内の7頭は血縁関係にあり、自然からの調達も厳しく、国内でシャチがいつまでも見られるとは限らないという。

同館の勝俣浩館長（55）は「数々の試練を乗り越えてきたラビーの20歳は感慨深

い。これを区切りに人工授精など繁殖技術をさらに高め、豪快なジャンプをファンに見せ続けたい」と意欲的だ。

鴨川市の成人式は同水族館で行うのが恒例。この日、亀田郁夫市長から成人証書を受けたラビーはプールから顔を出し、新成人と記念写真を撮った。新成人を代表してラビーにお祝いの言葉を贈った大学生安田圭佑さんは「幼い頃からラビーに楽しませてもらってきた。ラビーは郷土の誇りだ。トップスター。私もがんばるので、ラビーも技に磨きをかけてほしい」と語った。